

# 妙義山・浅間山

日程：2013年10月12日(土)～ 10月13日(日)

メンバー：4人

天候：晴れ

\*\*\*\*1日目 妙義山\*\*\*\*

コースタイム：	コース状況：
宝塚IC 22：15	妙義山の中腹を横断する石門群は、中級コースだが展望がよく、大勢の登山客でにぎわっていた。
妙義山登山口 6：15	中間コースの途中から入るタルワキ沢は、中腹からほぼ直登で最高峰の相馬岳に向かっている沢コース。
中之嶽神社 7：50	入口に「上級者向け」の看板があり、コースはガレた急な岩場を直登する。ところどころに鎖が付けてあるところがあるが、道と呼べるようなものはほとんどなく、ルートファインディングが難しい。
石門群入口 8：15	
タルワキ沢取付 11：35	
相馬岳（妙義山最高峰）12：50	
妙義神社 15：00	

## 写真：



道の駅「妙義」のすぐ上にある、登山者用無料駐車場に到着。



下山が妙義神社になるように、石門群の登山口まで向かう。



朝焼けの妙義山。稜線のコースは、超上級者向き。



しばらく車道を進む。



登山道の入り口から石門方面に向かう。



アプローチ道も、けっこう急。



大人場につく。大勢が休める東屋があった。



展望のいい場所にてた。ここからまた車道歩き。



石門群が見えてきた。



第一石門が見えた。



石門前の登山口を通過して、中之嶽神社に到着。ここにも駐車場や登山口がある。



遠くに荒船山が見えている。



中之嶽神社の駐車場から見た妙義山の全容。



これから行くコースを確認する。



再び石門登山口へ。



カニのこてしらべ。



ほぼ垂直な鎖場。



カニのよこばい。



たてばり？  
地図では、カニのたてばいとなっていた。



第一石門をくぐる。



片手下がり



鎖の連続。足場も悪い。でも、楽しい～



第三石門は、行き止まり。



第四石門。この前は、大きな広場になっていて、ベンチもある。向こう側に見えるのが大砲岩。



休憩中に、差し入れのリンゴをいただきました。



第四石門から今来た道を振り返る。なかなかの眺め。



大砲岩への取付き。



鎖場を登ったり降りたり・・・



トラバースしたり・・・



天狗の評定を登る。



天狗の評定から見た大砲岩。



天狗の評定の頂上にて。めざす相馬岳は、まだずっと上のほうに見える。



岩場をトラバースして、タルワキ沢に向かう。



ダイヤモンドソウ



道が崩れているところを通過する。



道に岩がせり出している。



岩に飲み込まれそう。



本読みの僧。  
かわいい石仏が・・・



ここがタルワキ沢?!  
道らしきものはない。  
とりあえず登ってみる。



しばらく進むと、「上級者コース」の看板。



岩に鎖がぶら下がっているだけ。ここを登れっか？！



ぜんぜん道らしいものはなく、ひたすら岩をつかんで登っていく。



所々、鎖がかかっているのも、コース上にいるのだとわかる程度。



やっと、稜線に出た。相馬岳のピークはまだ先。



稜線からの眺め。絶景！



妙義山の最高峰、白雲山相馬岳に着く。



遠くに、明日登る浅間山が見えている。



三角点にタッチ！



もと来た道を下って、中間道に合流し、このコース唯一の水場に出た。大黒滝。



第一見晴台



見晴台からの眺め。



無事に妙義神社に到着。本殿は重要文化財。



妙義神社の参道の見事な大杉。



車で本日の宿泊地、浅間山荘へ。快適なコテージ内での夕食は、地元の信州ラムでジンギスカンパーティー！

### 感想／記録：

JR 宝塚駅から、今回はレンタカーを借りて、高速をとばし、松井田妙義 IC をめざす。IC 手前 2 キロの SA で午前 5 時。量張りの休憩室にて仮眠後、登山口へ。群馬県の奇勝、妙義山。コースはふもとの散策道・石門群を巡る中間道・稜線を登下降する三つのコースに分かれている。

稜線コースは、岩登りの装備が必要なので、我々は、中間道をめぐることにした。

石門コースは変化に富んでおり、景観もよく快適に通過することができた。

ほとんど石門コースも終わりに近づいたのにまだ昼前だったことから、せっかくなのでと最高峰の相馬岳へ、タルワキ沢を通って行ってみようということになった。このコースがけっこうな難コースで、山頂までほぼ直登で道らしきものがない。

登りはひたすら上を目指して行けばよかったが、下りが危なかった。

道標なども全くなく、浮石だらけ。道はロスするわ、浮石に乗って危うく転落しそうになるわと大変な思いをしながら、なんとか中間道まで戻ってこられてほっとする。

それでも、天気にも恵まれ、岩場の景観を楽しみながら妙義神社まで戻ってきた。

途中で稜線コースに行く登山者にもあったが、ハーネスにヘルメットと、完璧な岩登りの装備をした人たちが多かった。

もっと岩登りの腕を磨いて、今度は稜線コースにも挑戦してみたい。

\*\*\*\* 2日目 浅間山\*\*\*\*

<p><b>コースタイム：</b></p> <p>浅間山荘前 6：00          火山館 7：40          浅間山 シェルター前 9：30          前掛山 山頂 10：00          Jバンド 取付 11：20          蛇骨岳 13：10          黒斑山 13：40          トーミの頭 14：00          火山館 14：50          浅間山荘前 16：00</p>	<p><b>コース状況：</b></p> <p>浅間山荘前から出発。火山館までは、樹林帯を緩やかに登っていく。          火山館を過ぎてから、浅間山山頂に向かう道と、Jバンドを通過して外輪山に向かう道の二手に分かれる。          浅間山に向かう道は、ガレた火山岩や火山灰の急な道をひたすら山頂まで登っていく。シェルターから先は立ち入り禁止になっていて、浅間山の山頂に立つことはできない。もっとも、数人のグループが無視して立ち入っていたが・・・          シェルターから外輪の前掛山山頂までの道は、台風の影響か、風が非常に強く、立っているのもやっとだった。ピークハント後、もと来た道に戻る。浅間山のふもとから Jバンドに向かう道は、短い岩場の急登。登りきった稜線上も風が強く、蛇骨山までは岩場の縦走が続く。蛇骨山から黒斑山へは、稜線上の樹林帯を進む。火山館方面に戻るには、トーミの頭の少し手前の草スベリへの分岐を降りる。見落としやすい分岐なので、注意が必要。</p>
--	--

**写真：**



浅間山荘前駐車場に車を置いて、出発。



山荘の前を通過。



樹林帯の林道を進む。



赤い川が流れている。



ふもとでも、所々紅葉している。



一の鳥居前に到着。



白樺林と紅葉林



二の鳥居で休憩



外輪山が見えてきた。



外輪山がはっきりと見えてきた。



浅間山開祖の碑



火砕流の跡。このあたりは硫黄くさい。



火山館に到着。ここから先にトイレはない。



あとから縦走するコースが見えてきた。



植生が変わってきた。松が多くなってくる。



ナナカマドの紅葉。



J バンドとの分岐。前掛山方面に進む。



朝日に照らされた浅間山。ふもとは黄葉していた。



蛇骨岳方面の縦走路も見える。



浅間山のふもと。樹林はもうない。



どんだんのぼっていくと、目の前が開けてきた。遠くに雪をかぶった立山連峰と、北アルプスの峰々が見えている。



やっとシェルターが見えてきた。



前掛山の稜線。



前掛山の稜線からの眺め。



遠くに富士山が見える。



前掛山の山頂に到着。本物の浅間山の頂上は、後ろに見えている。



今来た道を振り返る。非常に風が強かった。



来た道を分岐方面に戻る。



J バンド取りつきへの樹林帯を進む。



紅葉と浅間山。



外輪山のふもとの樹林帯



J バンドに取りつく。



道の端に野生のブルーベリー発見。食べてみると、おいしかった。



振り返って浅間山方面。



J バンド頂上付近の岩場を進む。



稜線に出た。



岩場の続く稜線の道。



稜線上にはブルーベリーがいっぱい。しばらくブルーベリー狩りを楽しむ。



再び稜線の岩場を蛇骨岳方面に向かって進む。風が強く、足を取られそうになるくらい。



これから行く道。



もと来た道を振り返る。



蛇骨山に到着。



今通ってきた岩稜帯の道。



蛇骨岳を過ぎると、林の中の道を進むことに。  
このあたりは平坦で歩きやすい。



黒斑山に到着。



ここから見る浅間山の容姿が美しいと評判。



所々、展望が開けてもと来た道が見渡せるようになっている。



草すべりへの分岐。



トーミの頭。



草すべりを急降下。



ふもとの樹林帯に戻ってきた。



再び火山館前。



登山口の神社についた頃には、薄暗くなりかけていた。秋の日はつるべ落としに暮れていく。



今日の夕食は、寄せ鍋。あつたまる～



翌朝、荒船湖の周りを散策。



さようなら、浅間山。素晴らしい景色をありがとう！

## 感想／記録：

コテージでの快適な朝を迎え、おいしい朝食をいただいたあと、二日目も快晴の中、浅間山とその外周を縦走する。

百名山だけあって、昨日の妙義山とは比べ物にならないほどの大勢の人が登ってくる。子ども連れも多い。山自体は、距離はあったがとても登り易く、ファミリーには人気のある山のように。

ふもとの樹林帯はすでに紅葉が始まっていて、真っ黒な浅間山の山容に彩りを添えている。コース中はずっと展望がよく、360度のパノラマを楽しみながらの山歩きを続けることができた。ただ、台風のせいか風が強く、前掛山の山頂付近や外輪の山を通過しているとき何度も身体を持っていかれそうになった。

Jバンド周辺では、野生のブルーベリーに舌つづみ。外輪山の稜線も風は強く、岩場の連続だったが、360度のパノラマ走行。天気はずっと快晴で、遠くの富士山や、アルプスの雄姿を眺めながら、味覚も堪能して、最高の気分で山を降りる。

3日目は、レンタカーを午後7時までに返さないといけない時間の縛りがあったため、予定していた荒船山登頂をあきらめて、付近を散策後、早めに帰宅することとなった。

三日間とも、天気にも恵まれた素晴らしい山行だった。雪の積もる頃に、また来たいと思った。自然に、仲間に、心からの感謝を！